資料：新庄市

実施主体	新庄市教育委員会

平成１９年度国際教育推進プラン報告書

１　実施主体
　山形県　新庄市教育委員会

２　実践学校名
　中核校　・・・　新庄市立新庄小学校、新庄市立升形小学校
　協力校　・・・　新庄市立各小中学校（全小学校：１０校、中学校５校）

３　連携先ＮＰＯ法人等名
◇国立大学法人　山形大学　エリアキャンパスもがみ
　〒990-8560　山形県山形市小白川市１－４－１２　＜大学事務局＞
　〒996-0079　山形県新庄市千門町１７－２６　　＜最上事務局＞

◇ＮＰＯ法人　新庄市国際交流ボランティアグループすまいる
　〒996-0076　山形県新庄市宮内町３－４４　　＜代表：　菅野理佐　＞

４　平成１９年度の実践活動

（１）取組内容
＜コロラド州立大学生語学ボランティアの受け入れ＞
①　受け入れの経緯について
　従来より、山形県とコロラド州は、姉妹提携都市としての友好関係を築いてきたが、平成18年度に、山形県文化環境部を通して交流学生の受け入れが提案された。交流学生は、コロラド州立大学で日本語や日本文化を専攻する学生である。しかし、受け入れにあたっては、学生の負担経費の削減を前提としたホームステイが原則となるため、受け入れに名乗りをあげる自治体は少なかったようである。新庄市では、厳しい財政状況の中で、平成16年度よりＡＬＴの配置が休止状態になっていることもあり、この交流学生を積極的に受け入れ、市内各小中学校に対して語学ボランティアとして派遣する計画を立てることにした。
　ホームステイ先の確保に関しては、ＮＰＯ等市民団体と協議しながら、地道に理解を求めた結果、これまでも外国人を受け入れた経験のある有志を中心としたホストを確保することができた。ホストファミリーからは、食費も含めた僅かな謝金にも関わらず、たいへん温かい対応と協力を得ることができた。休日には、家族とともに県内の観光名所等を案内したり、地域との交流会を設定したりする等、学生にとっても思い出に残るホームステイとなった。

資料：新庄市

② 実施スケジュールについて

期　　日	学生Ａ（Tiffany　Lenhard）	学生Ｂ（Arlet　Schmidt）
５月２２日（火）		□日本到着　→（観光）
５月２９日（火）	□日本到着　→（観光）	
６月　１日（金）	□山形市到着　→　山形大学で交流 （観光）	
６月　４日（月）	■新庄市到着　→　オリエンテーション、ホストファミリーと面会	
６月　５日（火） ７月２６日（木）	■ホームステイ・語学ボランティア（市内各小中学校へ）	
７月２７日（金）	□離県（山形新幹線）－見送り－ ※国内観光後に帰国	

③ 各学校における活動状況について　～感想・意見より～

各校から寄せられた事後アンケートの記述から、学生の活動状況が記されたものを以下に抜粋する。

子ども達は、コロラドの学生が来ることを楽しみにしていた。自ら積極的に声をかける姿も見られ、交流の輪が広がった。できれば、来年度以降も、この事業を継続して欲しい。

コロラドの学生が、日本語も堪能であったため、こちらの意図やねらいを伝えながら活動を仕組むことができた。同じ学生を連続して派遣していただいたことで、スムーズに活動できた。

たいへん真面目な学生で、一生懸命に授業に協力していただいた。子ども達の実態に合った内容を、短時間に打ち合わせにも関わらず、とても楽しく教えていただいた。

学校で準備した教材をもとに、楽しい活動を工夫していただいた。休み時間や給食を共に過ごし、触れ合うことができた。異文化と触れ合う貴重な機会として、事業を継続して欲しい。

お二人とも社交的で、子ども達にとてもにこやかに接してくださった。語学ボランティアの生きた英語を通して外国の方との触れ合いが実現し、有意義な時間をもつことができた。

あいさつ、ゲーム、歌などを通して、楽しく活動できた。本物の外国語を聞くことは、子どもにとってすばらしい経験なので、今後も是非継続して欲しい。

授業の中で、簡単な会話やゲームに参加してもらった。とても意欲的に取り組んでいただき、ありがたかった。授業以外にも、子ども達と一緒に遊んだり、給食を食べたり、たくさん関わっていただき貴重な体験となった。

小学生と習字に取り組むコロラドの学生

資料：新庄市

＜外国人花嫁等地域人材の活用＞

①　ワークショップについて

市内に在住する外国人に依頼し、母国の郷土料理を紹介してもらうことにした。これまでも、市内各校における総合的な学習の時間等の中で、ゲストティーチャーを招き、諸外国の郷土料理を調理して味わうという活動が行われていたことがきっかけである。こうした活動においては、ゲストティーチャーの発掘が最も大きな課題であったため、児童生徒が、予め日常的に目に触れるカレンダーの形に集約するというアイデアが生まれた。

異国との文化交流において、食文化は、もっとも日常的で身近に実感できるものである。これは国内においても、それぞれの地方に郷土料理や伝承料理が存在し、その背景に特色ある暮らしぶりや歴史があることは言うまでもないことである。

郷土料理を紹介してもらえる市内在住の外国人を発掘する作業については、ＮＰＯ「すまいる」に全面的な協力をお願いした。これまでの活動で培われてきた貴重なネットワークを駆使し、実に多様な国々の郷土料理を集約することができた。

集約した郷土料理の紹介者からは、実際に調理に取り組むワークショップを通して、詳しいレシピを作成するとともに、それぞれの料理が母国の中でどのような生活場面で味わわれているのか、また、どのようにして受け継がれてきたのか等についても、紹介してもらった。

～　国際教育の推進へ向けた教材『国際交流カレンダー』の作成　～

期　日	指導協力者	活　動　内　容
５月２５日	加藤真由美氏（中国出身）	中国料理についての打ち合わせ（メニュー選定）
６月　３日	加藤真由美氏（中国出身）	上記メニューの調理及び写真撮影・レシピ作り
７月１０日	安喰ジュアナ氏、小原デデ氏（インドネシア出身）	インドネシア料理のについての打ち合わせ
７月１６日	安喰ジュアナ氏、小原デデ氏（インドネシア出身） 笹アンドレ氏（ハンガリー出身）	上記メニューの調理及び写真撮影・レシピ作り ハンガリー料理についての打ち合わせ
８月　４日	笹アンドレ氏（ハンガリー出身） スエリー・プシ氏（ブラシル出身）	上記メニューの調理及び写真撮影・レシピ作り ブラジル料理についての打ち合わせ
９月　２日	スエリー・プシ氏（ブラシル出身） デービッド・メレデス氏（アメリカ合衆国出身） 早坂王妃氏（韓国出身）	上記メニューの調理及び写真撮影・レシピ作り アメリカ料理についての打ち合わせ 韓国料理についての打ち合わせ
９月　９日	早坂王妃氏（韓国出身） 角川カトリン氏、斉藤リナ氏（フィリピン出身）	上記メニューの調理及び写真撮影・レシピ作り フィリピン料理についての打ち合わせ
９月３０日	角川カトリン氏、斉藤リナ氏（フィリピン出身） シボン・マクミラン氏（北アイルランド出身）	上記メニューの調理及び写真撮影・レシピ作り イギリス料理についての打ち合わせ
１０月２０日	シボン・マクミラン氏（北アイルランド出身）	上記メニューの調理及び写真撮影・レシピ作り
１１月２７日	上記協力者	カレンダー構成及びレシピの校正

作成した『国際交流カレンダー』

完成した調理を前に記念撮影

資料：新庄市

～　「国際交流カレンダー」に紹介されている料理に関わるエピソード例　～

「水餃子」　　加藤真由美さん
（中華人民共和国吉林省出身）

餃子といえば昔はお正月の食べ物でしたが、今ではいつでも食べるようになりました。お正月の１２月３１日、旧暦の大晦日の午前０時、新年を迎える時に食べます。このとき、縁起をかつぐために餃子の中に硬貨を入れます。たったひとつの餃子にしか入っていないので、それを見つけようと家族みんなでワイワイ競って餃子を食べます。

裏面には、詳しいレシピを掲載。

「ラムと野菜のバナナスープ」
橋見ジョンさん
（フィリピン共和国ルソン島出身）

この料理は、お祭りや誕生日、お正月などのお祝いには欠かせないご馳走です。

いつも大きな鍋でおばあちゃんが作ってくれました。フィリピンでは香辛料をたっぷり使い、もっと濃い目の味付けでしたが、ここでは少し薄めに味付けしています。バナナもいろいろな種類があります。料理に使うバナナは日本でいつも食べている「フィリピンバナナ」とは味も形もちょっと違うんですよ。

また、上記「国際交流カレンダー」の作成と並行し、各学校における国際理解教育への指導協力を前提とした人材データバンクの作成にも取り組んできた。

母国の料理紹介はできないものの、文化や生活習慣に関する講話や母国語の指導等を通して各学校に協力できる人材のリストアップ作業についても、以下のように「すまいる」が中心となって実施した。

～　国際教育の推進へ向けた『人材データバンク』の作成　～

期　日	指導協力者	活　動　内　容
５月１１日	ＮＰＯすまいる（５名）	地域人材の発掘に係る打ち合わせと情報交換
６月　５日	同　上	地域人材の発掘へ向けた相談及び訪問
６月１２日	同　上	地域人材の発掘へ向けた相談及び訪問
１２月　４日	同　上	地域人材の発掘に係る打ち合わせと情報交換
１２月１１日	同　上	地域人材の発掘へ向けた相談及び訪問
１２月１８日	同　上	地域人材の発掘へ向けた相談及び訪問
１２月２２日	同　上	人材データバンクの作成へ向けた打ち合わせ
２月　５日	同　上	人材データバンクの整理とまとめ

②　作成教材『国際交流カレンダー』・『人材データバンク』の活用について

完成したカレンダーを、市内の各小中学校に教材として配布。

⇩

◇　各学校では、国際理解を日常的に意識するための教室環境掲示として常掲。
◇　紹介されている方々を、国際教育の推進へ向けたゲストティーチャーとして認識。

⇩

各学校における国際理解教育の具現化（カリキュラム開発・年間指導計画への位置付け）

資料：新庄市

（２）取組内容の成果

＜コロラド州立大学生語学ボランティアの受け入れ＞に関して

□　コロラド州立大学より派遣された学生が、語学力に優れ、また、人格的にもすばらしかったため、市内各校での子どもたちとの交流と触れ合いが充実し、当初の目的を十分に達成することができた。

□　各学校からは、学生の受け入れを通して、異文化と触れ合う新鮮な交流が実現したことへの感謝の声が報告された。また、外国人児童（米国出身）が在籍する学校からは、学生の交流活動の中で、当該児童がとても意欲的に活躍し、以後の学校生活にも大きな自信を抱く契機となったというれしい報告もあった。

□　学生の受け入れは、語学ボランティアとして児童生徒との充実した交流を実現しただけでなく、ホストを中核とした地域における交流の面でも大きな成果が得られた。地域の中で、野外活動やバーベキュー等が積極的に展開されたことで、国際教育を地域ぐるみで推進していく基盤づくりが進められたと感じている。

＜外国人花嫁等地域人材の活用＞に関して

□　国際交流に係る既存のＮＰＯ団体と連携することで、たくさんの地域人材を発掘するとともに、貴重なネットワークづくりを進めることができた。この度作成した『国際交流カレンダー』は、各学校のみならず、地域を挙げて国際理解を推進していくために、実に大きな教材であり、啓蒙資料でもあると感じている。

□　今回の取組を通して、地域における外国人が生き生きと活動する姿が見られたことも大きな成果であると感じている。自慢の母国料理を、広く市民や学校の児童生徒に紹介することで、以後の生活に自信をもって向かえるようになったとの声も届いている。

（３）来年度の課題

＜コロラド州立大学生語学ボランティアの受け入れ＞に関して

■　学生の受入に際しては､各ホストファミリーの負担が大きくなってしまったと感じている。短期間での受入準備であったため、ホストの数が十分に確保できず、一部のホストの受入期間があまりに長くなってしまった。今後は、ホストの確保にも重点をおきながら、受け入れ体制にゆとりが生まれるように努力していきたい。

■　語学ボランティアとしての学校への派遣日程が詰まってしまったため、学生の負担が大きく、疲労を蓄積させてしまったと反省している。次年度は、休養日を勘案しながら学生にも無理のない派遣計画を立てていきたい。

■　一日だけであったが、学生に体調不良を訴えられ対応に窮した場面があった。医療保険についての確認等、事前打合せの不十分さを痛感した。今後は、緊急時の対応も想定した受入体制の整備が必要である。

＜外国人花嫁等地域人材の活用＞に関して

■　地域人材の発掘や協力依頼等に係る作業に、予想以上の時間を費やしてしまった。『人材データバンク』としてリストアップした人材を、各学校における国際理解教育の推進へ向けて、ゲストティーチャーとして真に有効活用していくことが大きな課題である。

※　次年度は、今年度の取り組みを通して整備された『コロラド州立大学生の語学ボランティア』や『人材データバンク』等の十分な活用をめざした各学校のカリキュラムや年間指導計画の見直しに重点を置き、さらに充実した国際理解教育を推進していきたい。